
アレキパの娘

場海司

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アレキパの娘

【Nコード】

N7185I

【作者名】

焔海司

【あらすじ】

旅先で出逢った、もの言わぬ一人の神風。脈打つその最後を、なんともしませんが、紡いでみました。。。

(前書き)

ペルー、アレキパの博物館に眠っています。。。

雲の上。

遙か彼方に連なる山々を、この頂から眺めれば、

「、、、、、、」

長い旅程も今日で終わりなのだ実感できた。

肌を刺すような痛みは、冷えきって乾燥した風がもたらすもの。

頭上で白々と輝く太陽の陽射しは眼を焼き、喉は薄い大気を求めてからからに渴いてもなお、貪欲に呼吸を繰り返す。

「、、、、、、」

さすった足は爪先から痛み、急かされ転んだ膝を見れば、血が土と共に固まっていた。

首から提げた、麻で折られた鞆かばん。

母が持たせてくれた臍の緒は、紅で染められたハンカチに包んで入れてある。

鼻先に押し付けければ、母の匂いが、まだそこに残っているような気がした。

「、、、、、、」

神官の手によって、わたしのその鼻先に、土器かわらけの深杯が、差し出される。

覗き込めば、琥珀色の気泡が上がっていた。

「、、、、、、」

冷え切った神酒が胃の腑に落ちて、わたしはうとうとと、まどろみに抱かれる。

疲れも、空腹も、今は緩慢な痺れに変わり、

『もう一歩だつて、歩かなくていいのだよ』

自分の外套を、腰を下ろして休むわたしの肩に掛けてくれたその人の声が、鼓膜にひどく心地良い。

祈りを捧げる、神官長。

その腰に提げられた棍棒は、ここに至るまで獣の爪と牙からわたしを守る楯ともなったが、やがて振り下ろされて、わたしの頭蓋を砕くだろう。

「、、、、、、」
コカの葉が燃えて立ち昇る紫煙が、風にたなびいては、掻き消えた。

もうすぐわたしの命は山に捧げられ、冷たいこの大地の上で、鼓動を止めるのだ。

そして、気高き翼の王の嘴によって、遙か彼方、父母が暮らす大地をも潤し、空を巡り、いつまでも彼らを見守る事だろう。

繰り返し、繰り返す。
その教え。

でも、どうしてだろう、、、、？
涙が一筋、頬を伝った。

視界の端に捉えた、最後のひとしずく。
大地に吸われる、その刹那。
わたしの体は地に、還る……

斜面に深く、掘られた穴。

人夫はよろめきながらも足を踏ん張り、背負っていた大きな壺を、穴に差し入れた。

まだ新しい壺が、幾つも土の下から姿を覗かせたが、人夫は何も発さず、一隊の最後尾へと戻っていった。

神官によって抱き上げられ、折り曲げられた少女の手足。

掛けられた外套と共に、壺の中へ入れられれば、後は冷たい土を掛けられた。

「、、、、、、」
この土の下で、少女は、眠る。

多くの人柱と共に、昏々と。

皇帝の御世、その安寧のため。

「、、、、、、」
物言えぬ、体。

虚ろな、眼窩。

これを供物と呼ぶのなら、捧げられた神はどんな想いを抱くの
だろう？

若い神官は、均された山肌を仰ぎ見て、そう思った。

これから、いつたいどれ程の子らを、捧げる事になるのだろう
か、、、、

父母に代わり慈しみ、時に厳しくも育てた、神凧かんなぎらを・・・

長旅の目的を果たし、都へと戻る一隊の歩みは、心なし速かった。
振り向かぬ一行の、遙か後方。

轟々と、天地に轟く雷いかずちの音。

願わくば、この身を引き裂き、焼き尽くし、あの子らの元へと
還らせたまえ

やがて一隊を包み込むように降り注いだのは、民が待ち焦がれる
氷雨であった。

果たしてそれが、神の答えとも言つのだろうか？

どよめき、大地にひれ伏す、一隊の中、

「、、、、、、」
ただ一人、俯き肩を震わせた。

ぬかるむ大地には、幾筋もの小さな川が出来た。

止まない、雨。

若き神官の願いも涙も、無情にも拭い去ってしまうかのように・・・

(後書き)

読んで頂き、ありがとうございます。。。

旅の途中で出逢ったこの神風とは、湿度と温度を徹底管理されたガラス越しでした。研究チームの学生がガイドを務めてくれ、彼らなんとも言えぬ温かい眼差しや口ぶりに、ガラス越しながらその姿を垣間見て、思わず納得してしまった程、その顔は穏やかでそれは美しいものでした。

臍の緒。それは、薬にもされたようです。大切にハンカチに包まれていたため、きっと母親が持たせたのだろうと、そのガイドは言っていました。戻れぬと分かっているも、長旅の道中、病気をしないように、怪我をしないように、お守りでもあったのでしょうか？それを聞いた時、何百年、何千年前も、子を思う母の想い、その変わらぬ強さに打たれ、なんとも言えぬ心持になりました。。。

どうか、安らかに。。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7185i/>

アレキパの娘

2011年9月11日20時17分発行